

# 全般季節予報支援資料

## 1か月予報

2024年8月1日

予報期間：8月3日～9月2日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。  
東・西日本では、向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。  
沖縄・奄美では、2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

# 全般1か月予報

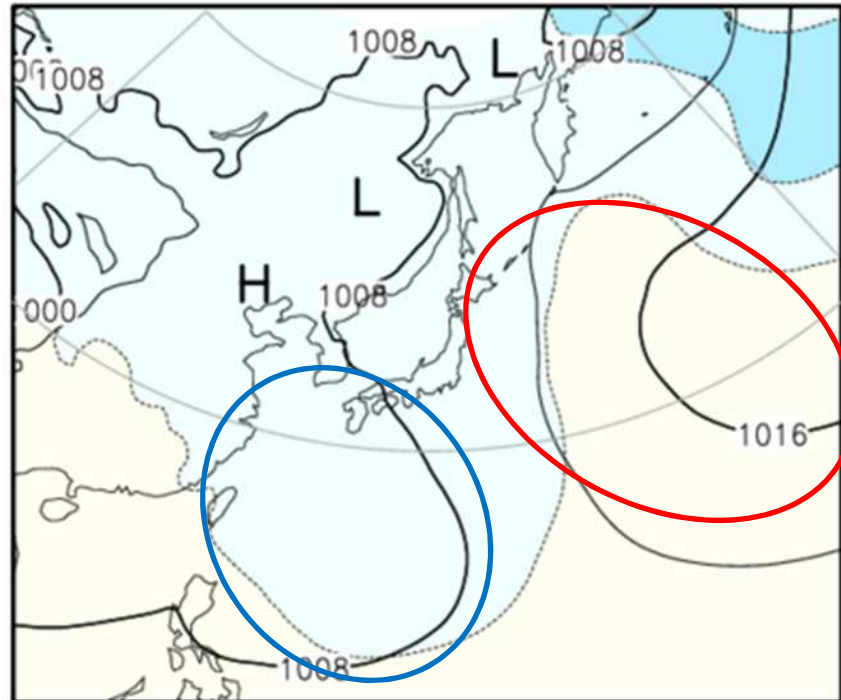
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	20:40:40	
	太平洋側		40:30:30	20:40:40	
東日本	日本海側	10:10:80	40:40:20	20:30:50	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
西日本	日本海側	10:10:80	40:40:20	20:30:50	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
沖縄・奄美		10:20:70	30:30:40	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:30:60	10:20:70	10:30:60

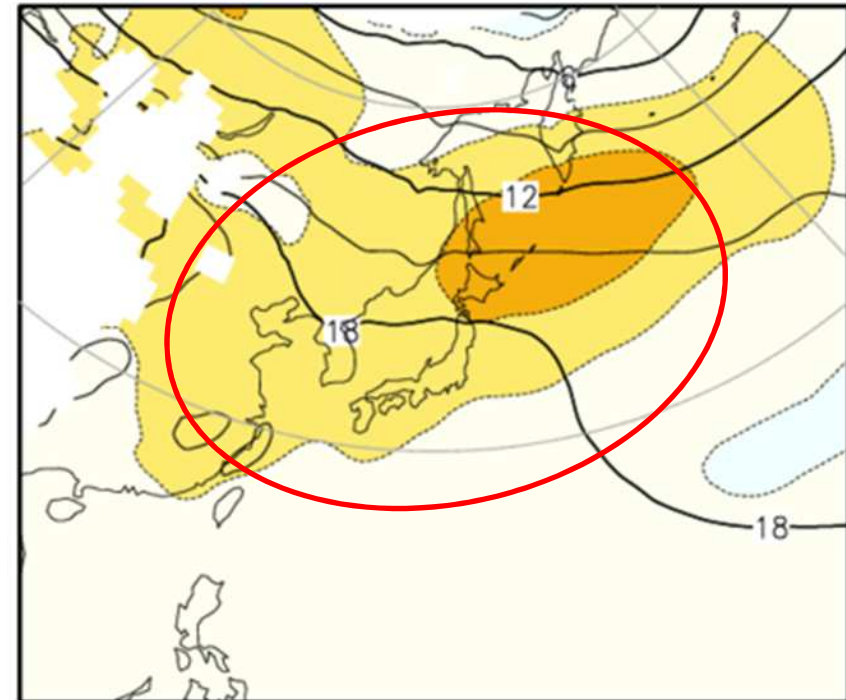
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため全国的に高いでしょう。特に、北・東・西日本では期間の前半、沖縄・奄美では2週目は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は、東・西日本日本海側では平年並か少なく、向こう1か月の日照時間は、東・西日本日本海側では多く、北日本では平年並か多いでしょう。

## 地上気圧(1か月)

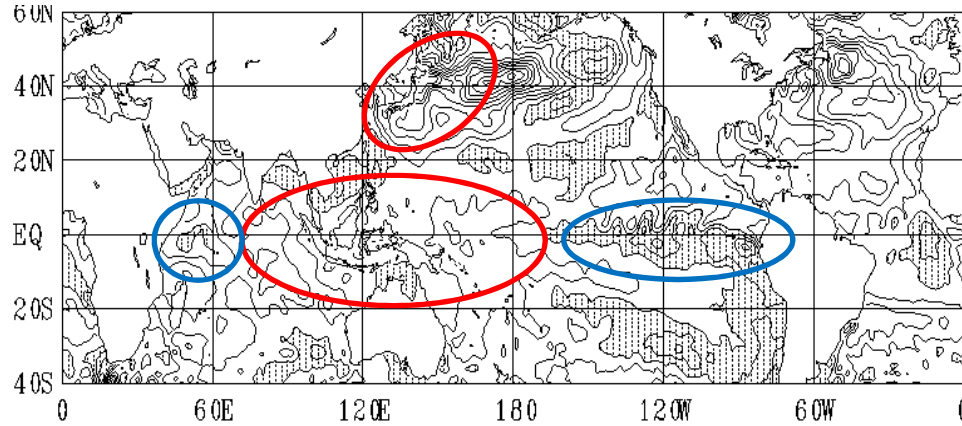


## 上空約1500mの気温(1か月)



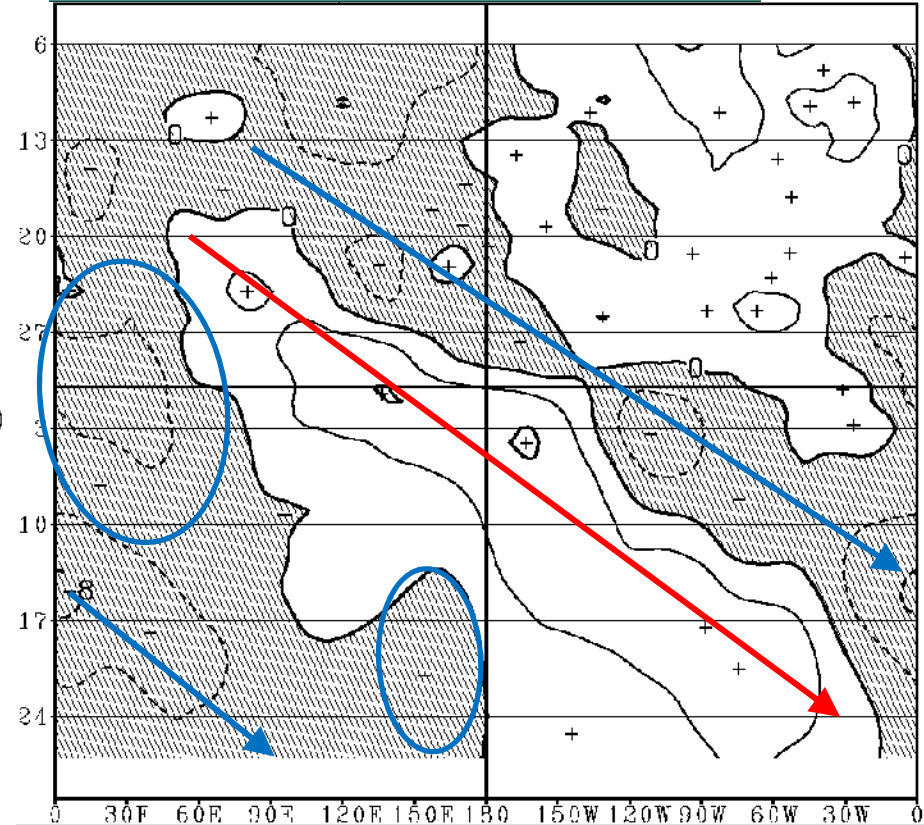
1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧の東からの張り出しが、北日本や東・西日本日本海側中心に強いでしょう。一方、日本付近から日本の南にかけて平年に比べ気圧が低く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の影響などを受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、暖かい空気が流れ込みやすいでしょう。

## SST偏差



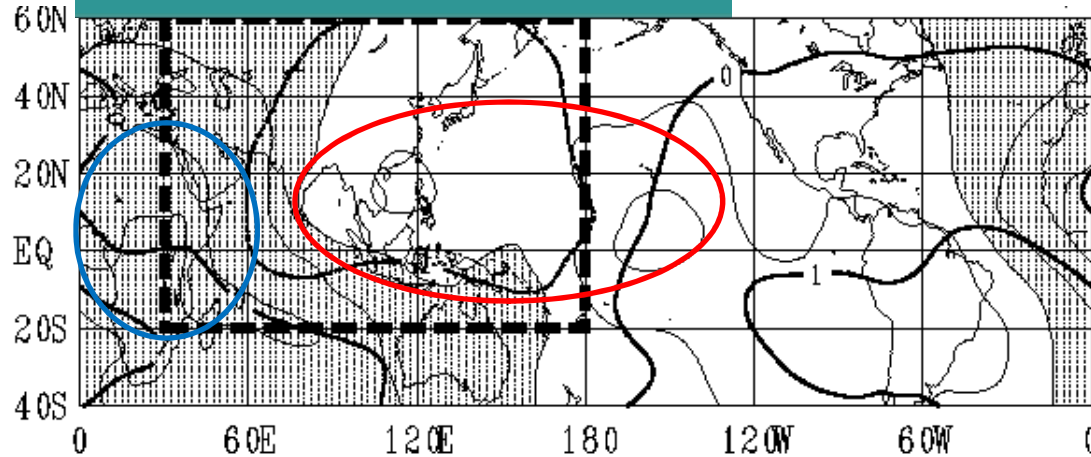
熱帯域では、インド洋西部では負偏差。インド洋東部から太平洋中部にかけて正偏差。太平洋東部では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。日本周辺海域で正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



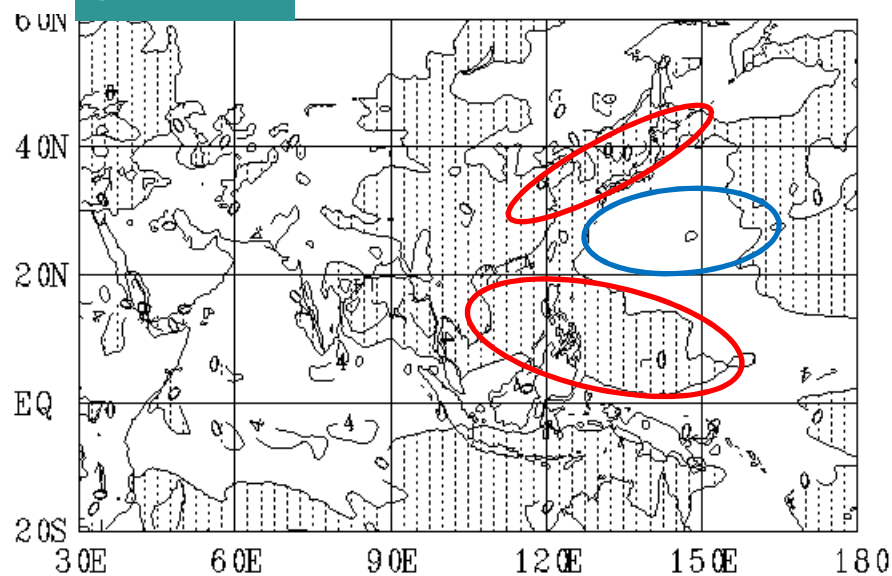
太平洋の対流活発域は東進。インド洋東部から日付変更線付近の対流不活発域は東進。また、期間後半は太平洋西部付近で対流活発がやや活発となる予測。

## 200hPa速度ポテンシャル



アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量

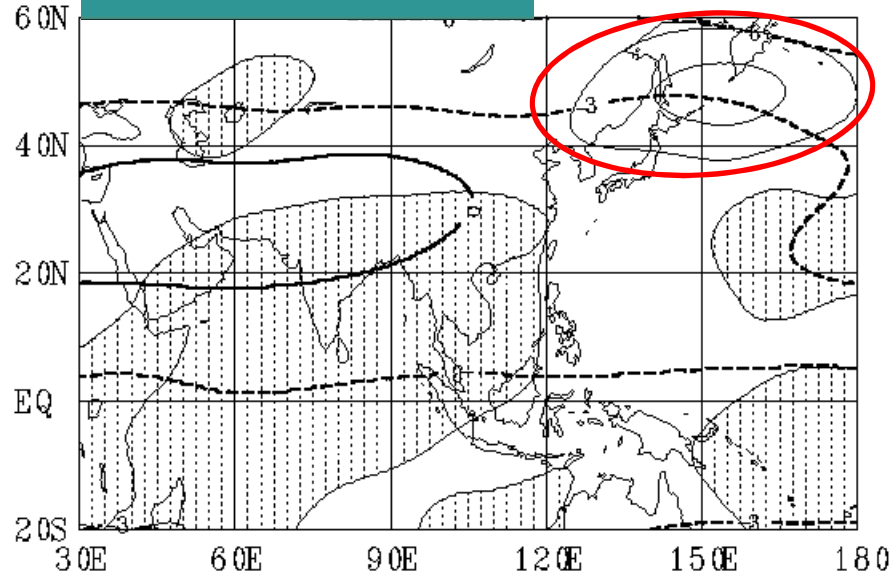


フィリピン付近から東と、北日本から西日本の日本海側を中心に少雨偏差。

日本の南から南東を中心に多雨偏差。

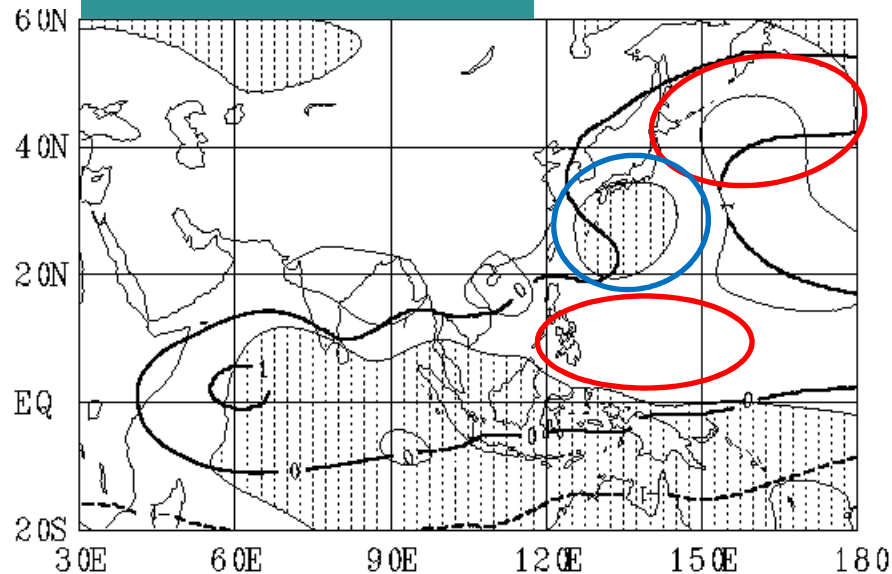
日本の南から南東の多雨偏差は、この領域の高い海面水温の影響を強めに受けていて降水量が過大な可能性がある。

## 200hPa流線関数



日本付近は北日本を中心に高気圧性循環偏差。期間のはじめの亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響を反映しており、特に期間の前半が偏差が強い。

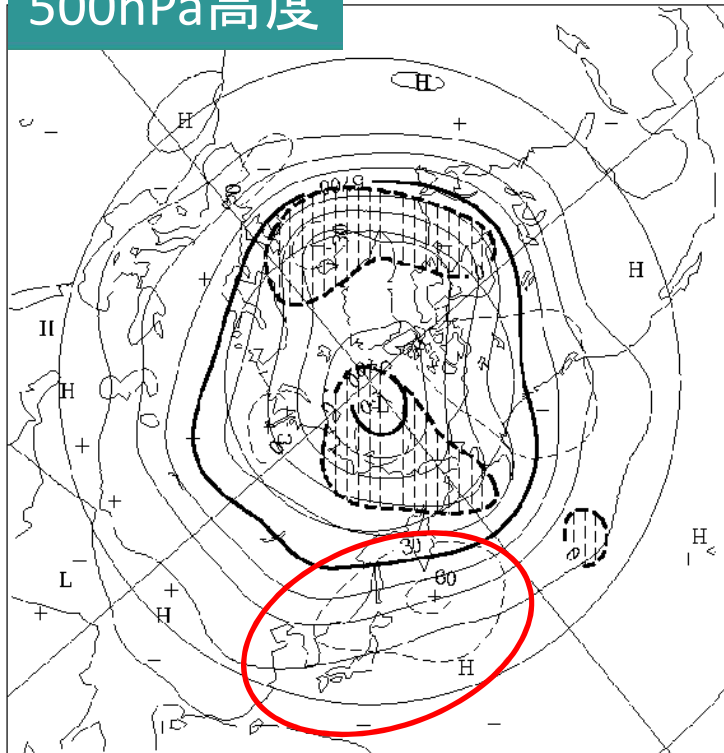
## 850hPa流線関数



千島の東とフィリピンの東には高気圧性循環偏差。一方、日本の南には低気圧性循環偏差。



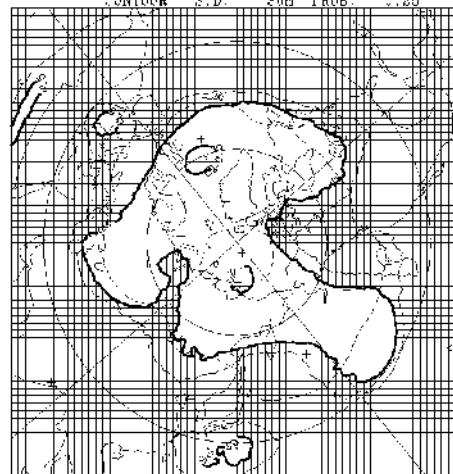
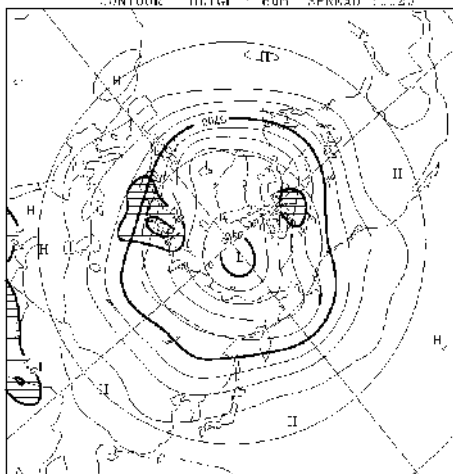
## 500hPa高度



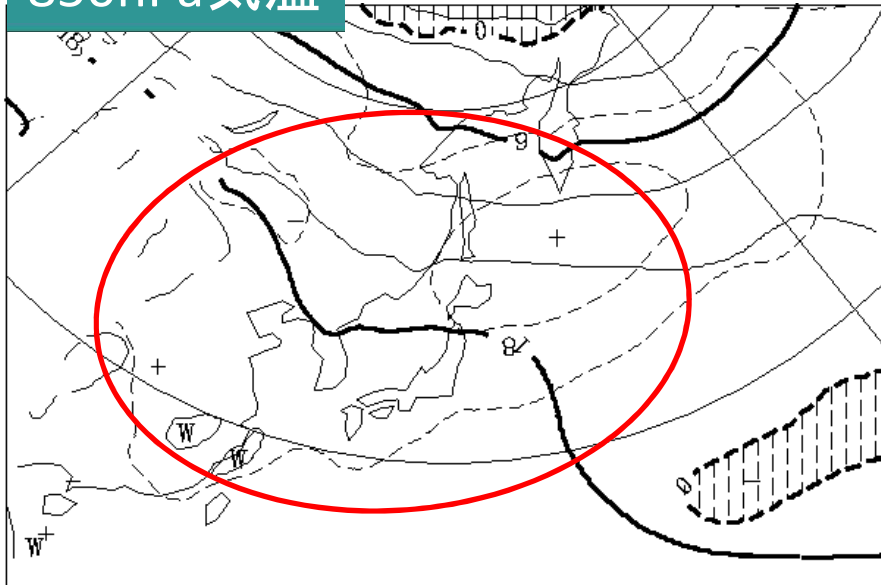
500hPa高度では、日本の東にリッジが予測され、日本付近は北日本を中心に正偏差が強く、正の高偏差確率が50%以上の領域におおむね覆われる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

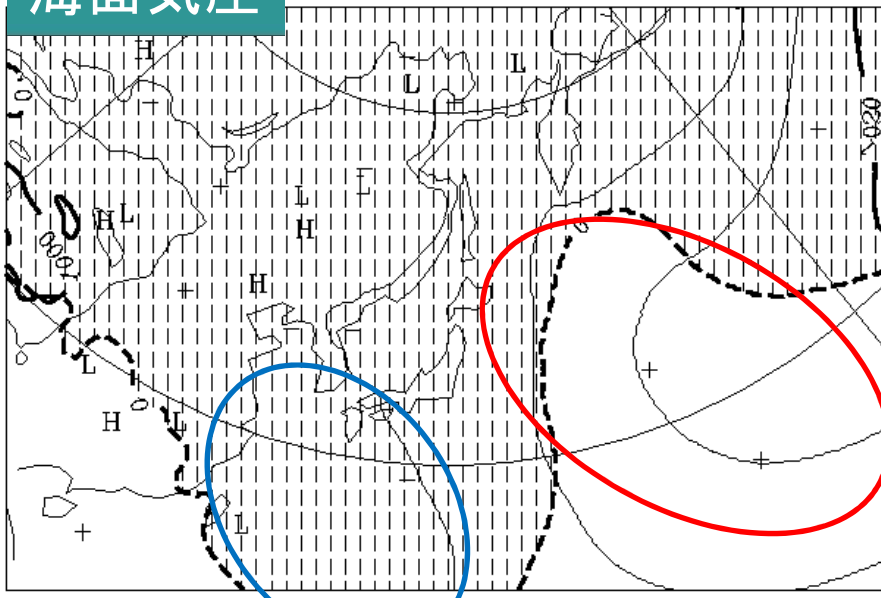


## 850hPa気温



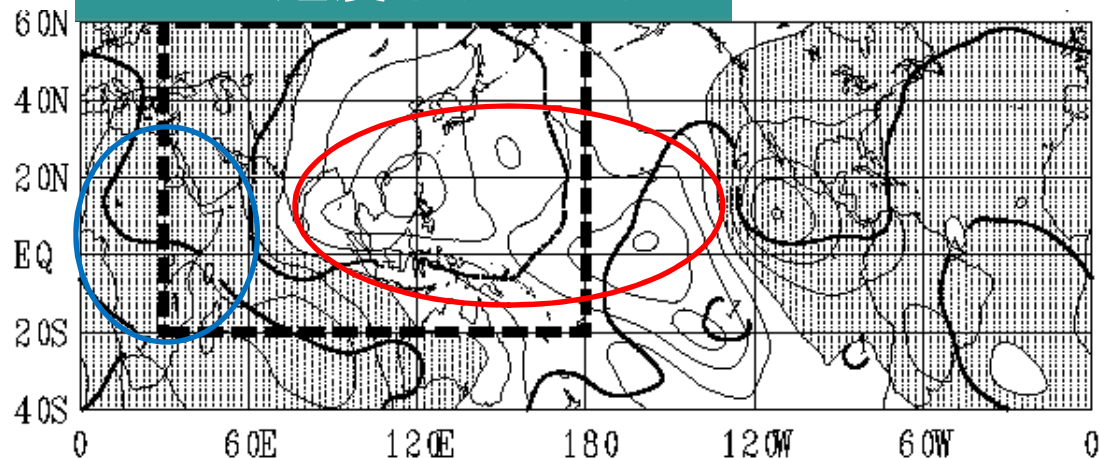
日本付近は上空のチベット高気圧と太平洋高気圧の影響で北日本を中心に、強い高温偏差に覆われる。

## 海面気圧



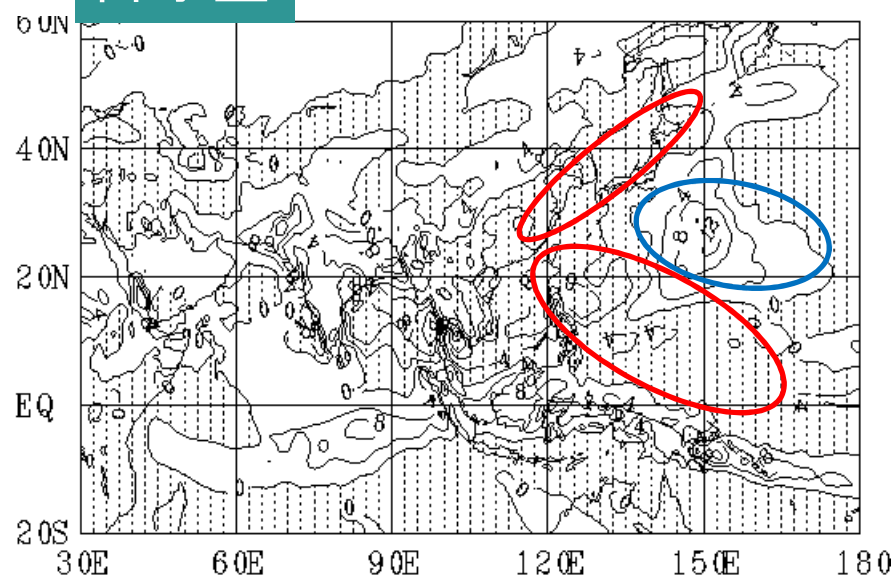
太平洋高気圧が日本のはるか東から北日本や東・西日本日本海側中心に張り出す。  
一方、日本付近は東シナ海から日本の南にかけてを中心に負偏差で、低圧部に対応。  
東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の影響などを受けやすい時期がある。

## 200hPa速度ポテンシャル



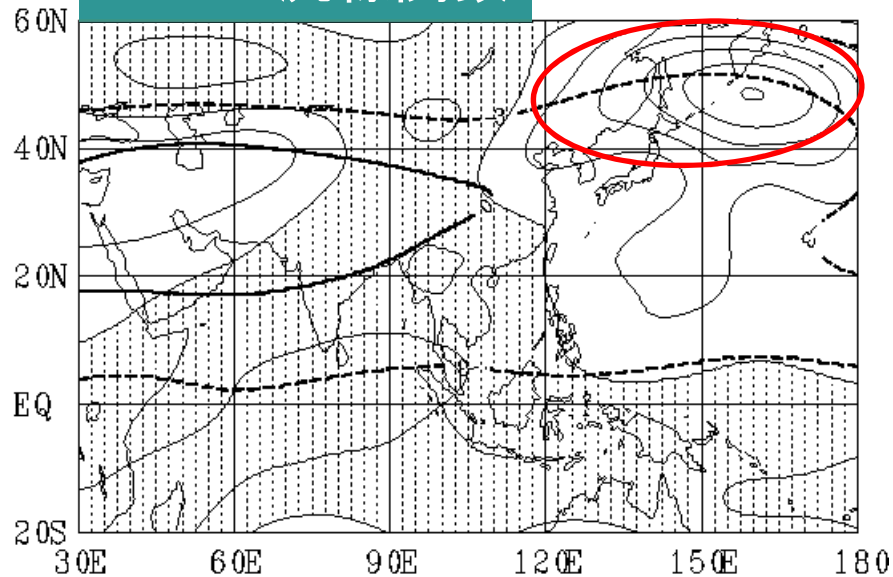
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



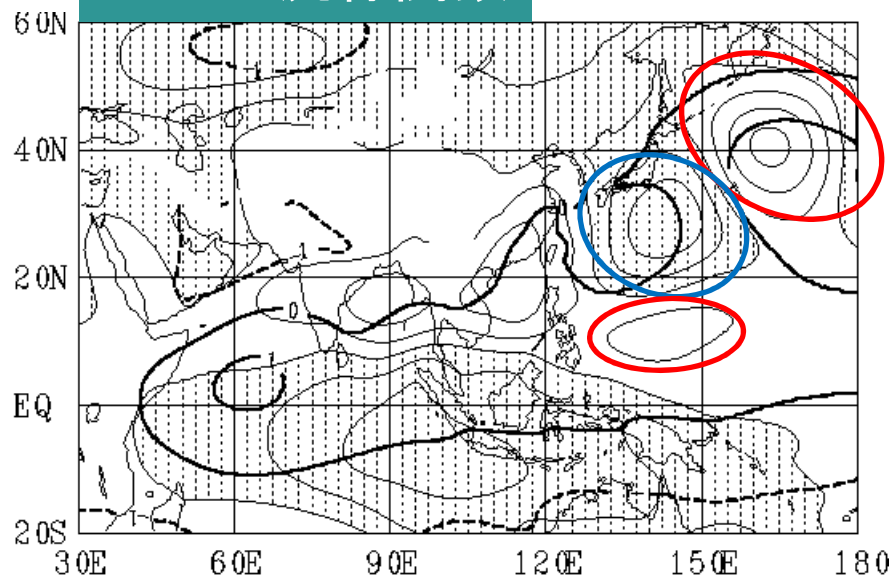
フィリピン付近から東と、北日本から西日本の日本海側を中心に少雨偏差。  
日本の南東を中心に多雨偏差。

## 200hPa流線関数



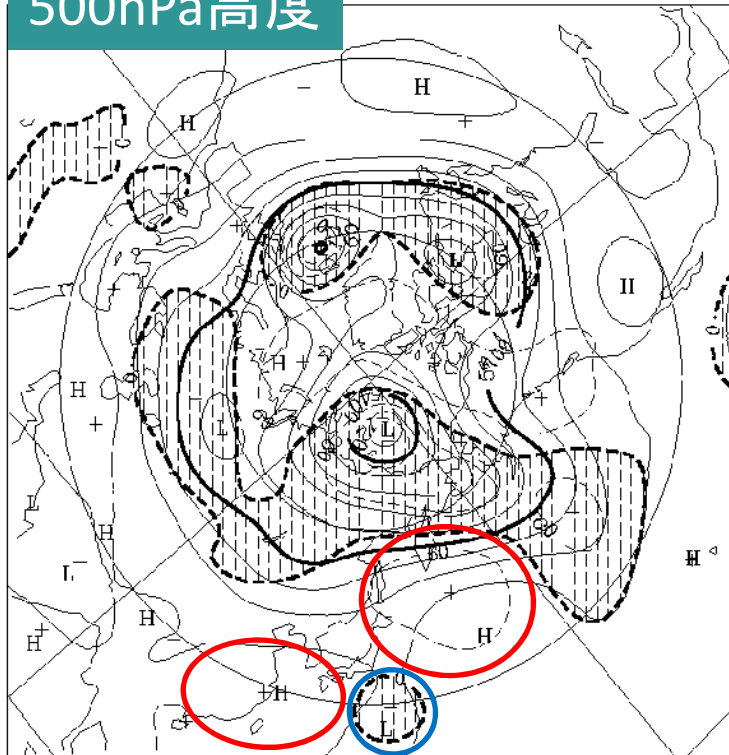
亜熱帯ジェット気流に沿って波列が見られ、千島近海付近で高気圧性循環偏差が明瞭。亜熱帯ジェット気流の軸は、サハリン付近まで北上する。

## 850hPa流線関数



千島の東付近で明瞭な高気圧性循環偏差、フィリピンの東にも高気圧性循環偏差。一方、日本の南から南東では低気圧性循環偏差。この低気圧性循環の中で熱帯擾乱の発生を示唆するアンサンブルメンバーもある。

## 500hPa高度

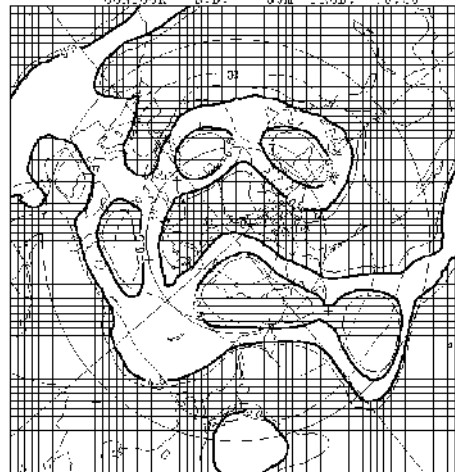
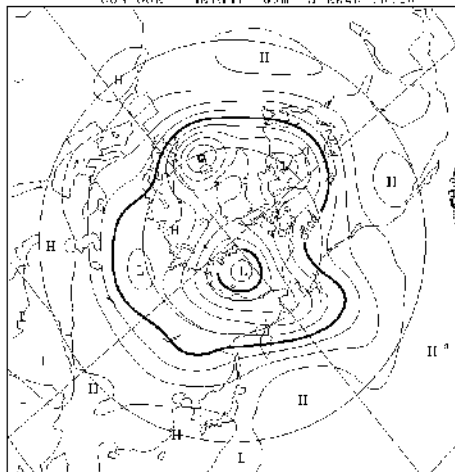


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

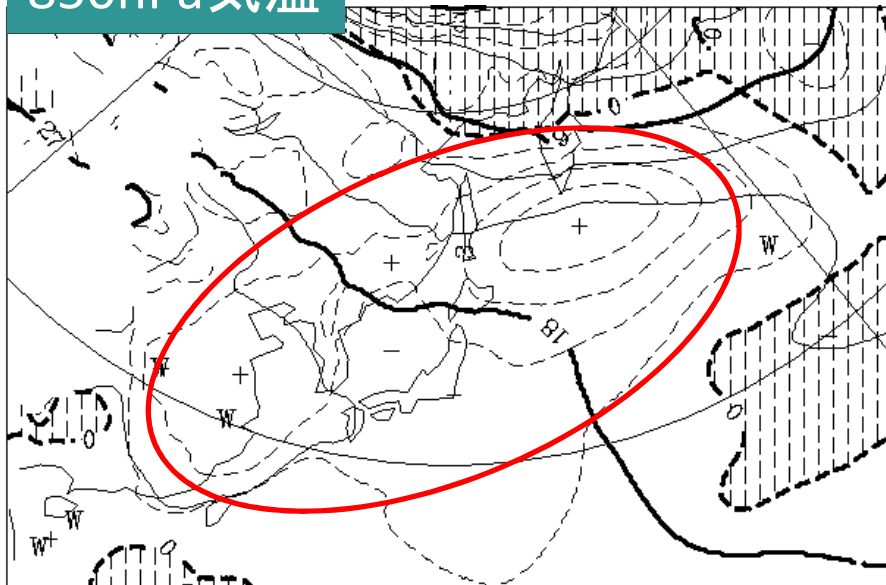
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



500hPa高度では、日本の東と東シナ海付近を中心とする2つの高気圧が予想され、日本付近は正偏差。北・西日本や沖縄・奄美がおおむね正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。

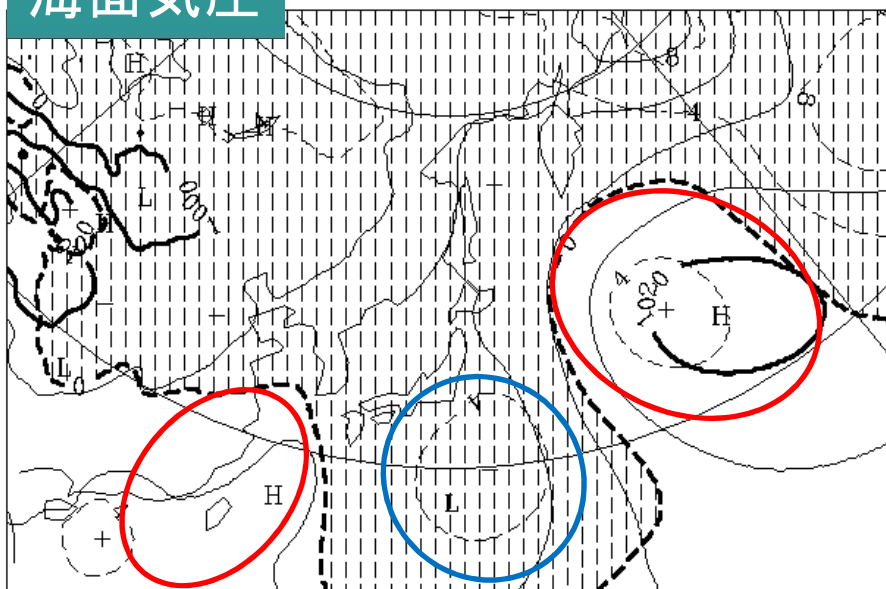
一方、2つの高気圧の間で偏差が小さくなっており、日本の南から南東は負偏差。

## 850hPa気温



日本付近は、北日本を中心に強い高温偏差域に覆われる。

## 海面気圧



日本の東と東シナ海付近で正偏差が強く、太平洋高気圧の張り出しが強い予測。  
一方、日本付近は日本の南から南東にかけてを中心に負偏差で、低圧部に対応。  
日本の東の太平洋高気圧と低圧部の影響で、日本付近には暖かい空気が流れ込みやすい。

## 想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
東・西日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

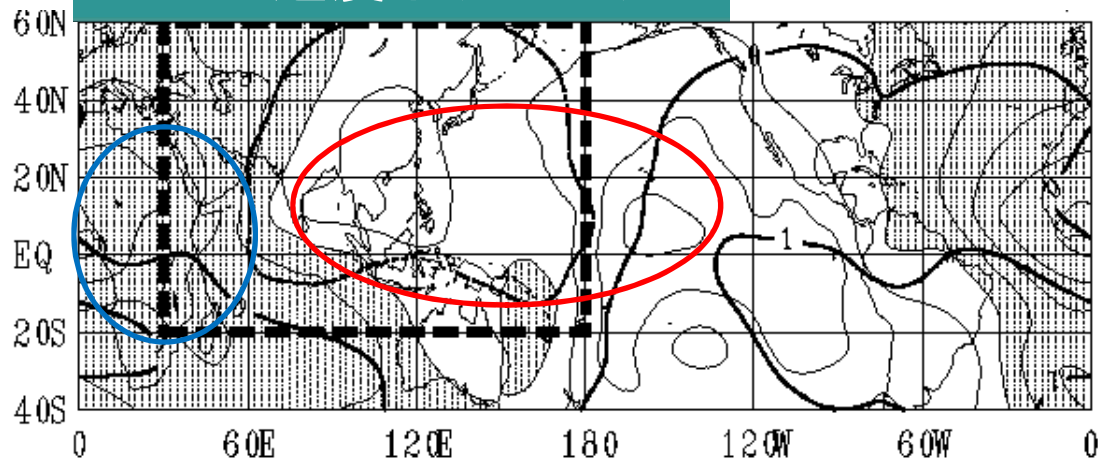
### <気温>

・太平洋高気圧の縁を回って暖かい空気が流れ込みやすいため、北・東・西日本では気温がかなり高くなる見込み。

### <天候>

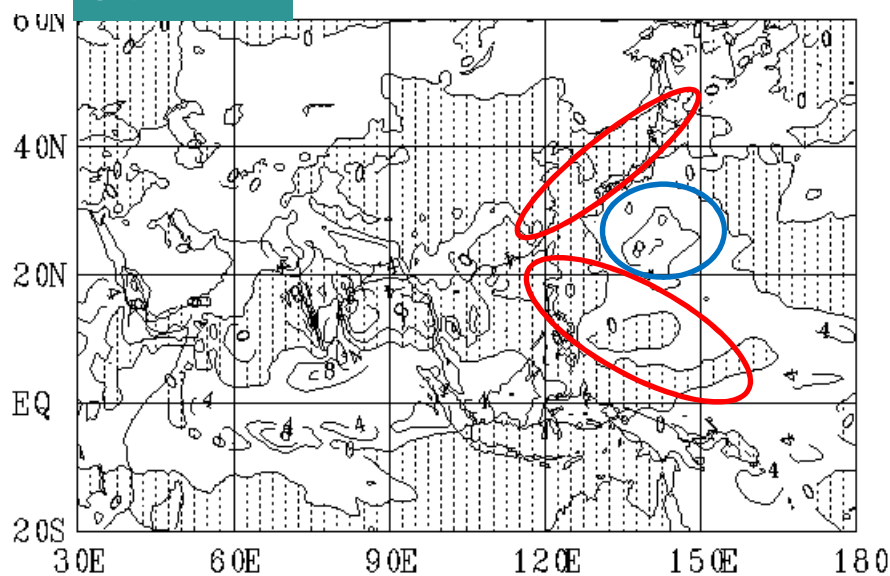
・北日本日本海側と東日本太平洋側では、並雨並照。  
・北日本太平洋側では、湿った空気の影響を受けにくいいため、やや少雨並照。  
・太平洋高気圧に覆われやすいため、東・西日本日本海側ではやや少雨多照傾向、西日本太平洋側と沖縄・奄美では並雨やや多照。

## 200hPa速度ポテンシャル



アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から太平洋で上層収束偏差。

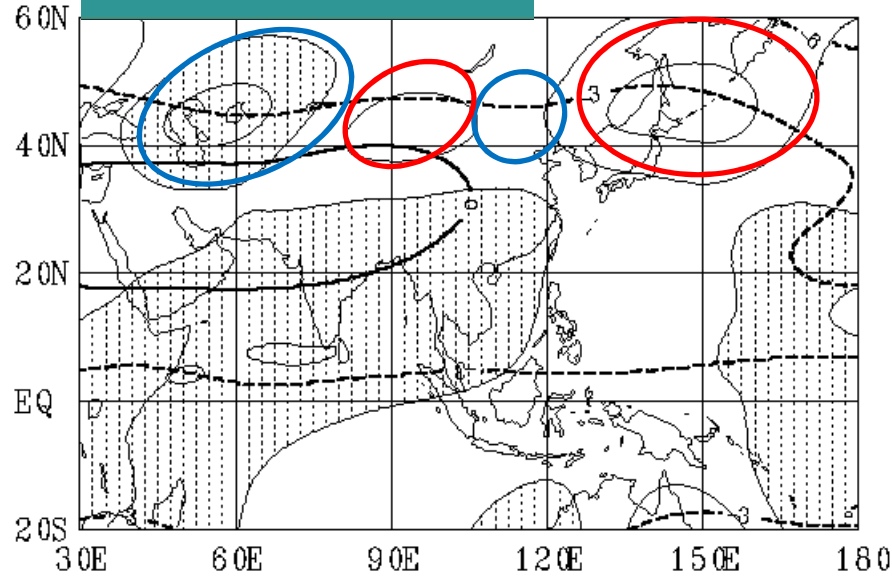
## 降水量



フィリピン付近から東と、北日本から西日本の日本海側を中心に少雨偏差。  
日本の南から南東を中心に多雨偏差。

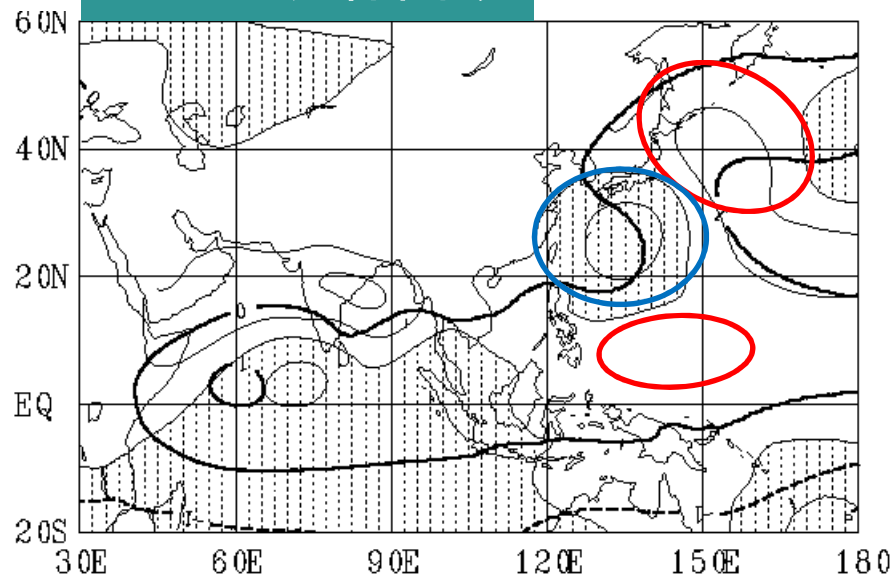


## 200hPa流線関数



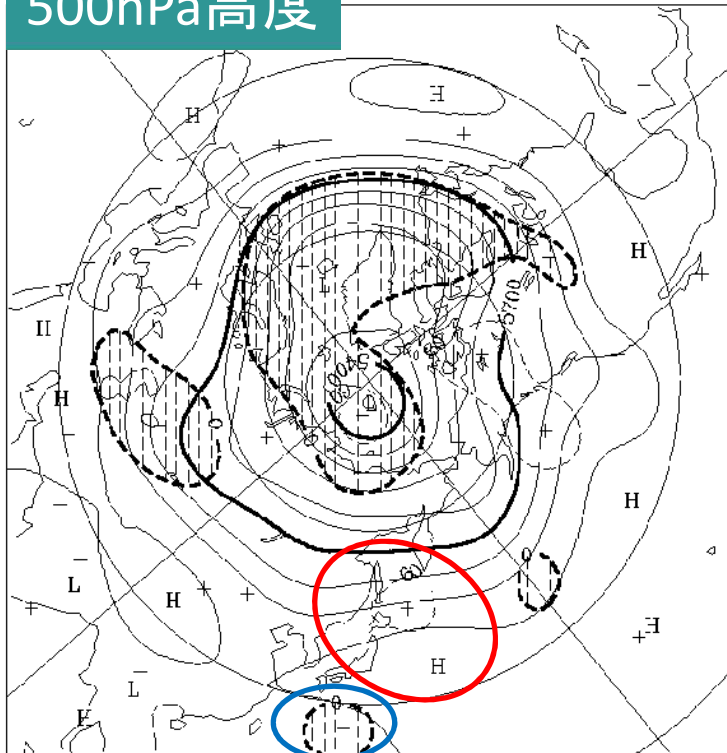
亜熱帯ジェット気流に沿って波列が見られ、オホーツク海から千島近海付近で高気圧性循環偏差が明瞭。

## 850hPa流線関数



千島近海付近とフィリピンの東では、高気圧性循環偏差。一方、日本の南では低気圧性循環偏差。この偏差は西進しているが、アンサンブルメンバーでもばらつきが大きく不確実性がある。

## 500hPa高度



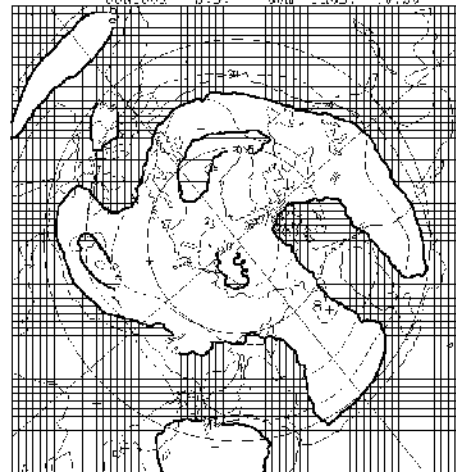
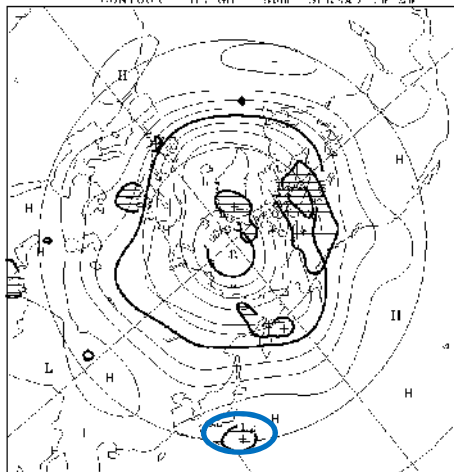
500hPa高度では、日本の東を中心とする高気圧が予想され、北・東日本を中心に正偏差で、おおむね正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。一方、日本の南は負偏差となっているが、スプレッドが大きく、予測に不確実性がある。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

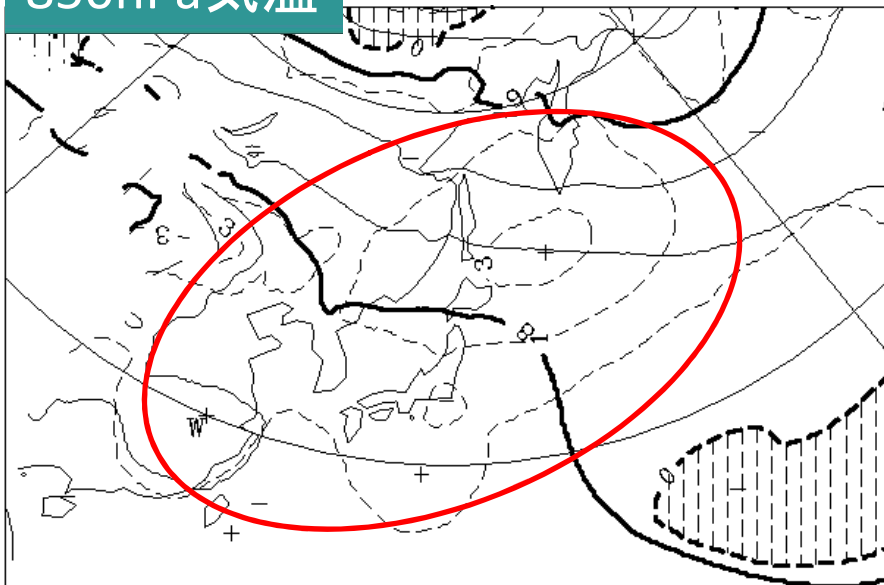
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 30% 20% 10% 0.25

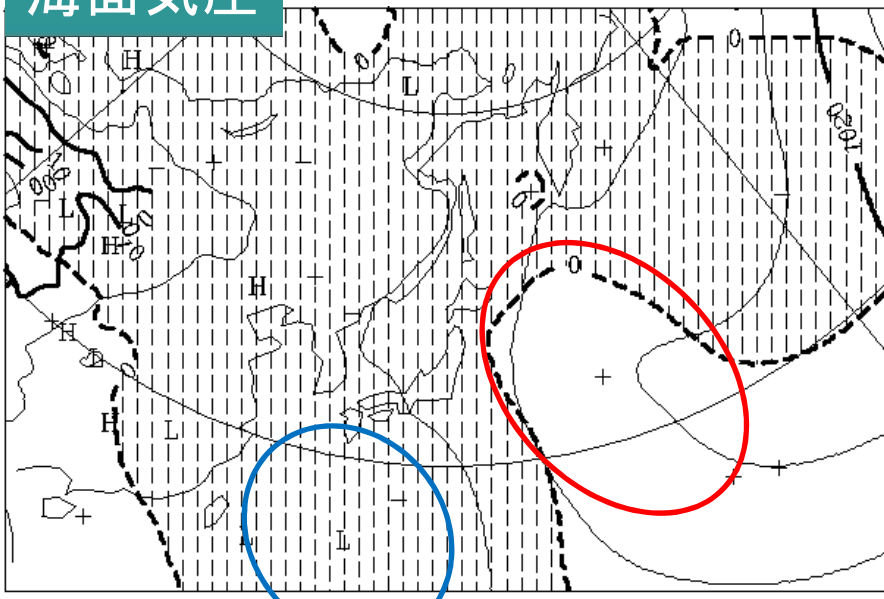


## 850hPa気温



日本付近は、強い高温偏差域に覆われる。

## 海面気圧



日本の東で正偏差となっており、北日本を中心に太平洋高気圧が張り出す。

一方、日本付近は日本の南から南西諸島付近を中心に負偏差で、低圧部に対応。

日本の東の太平洋高気圧と低圧部の影響で、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

## 想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

### <気温>

・太平洋高気圧の縁を回って暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に気温がかなり高くなる見込み。

### <天候>

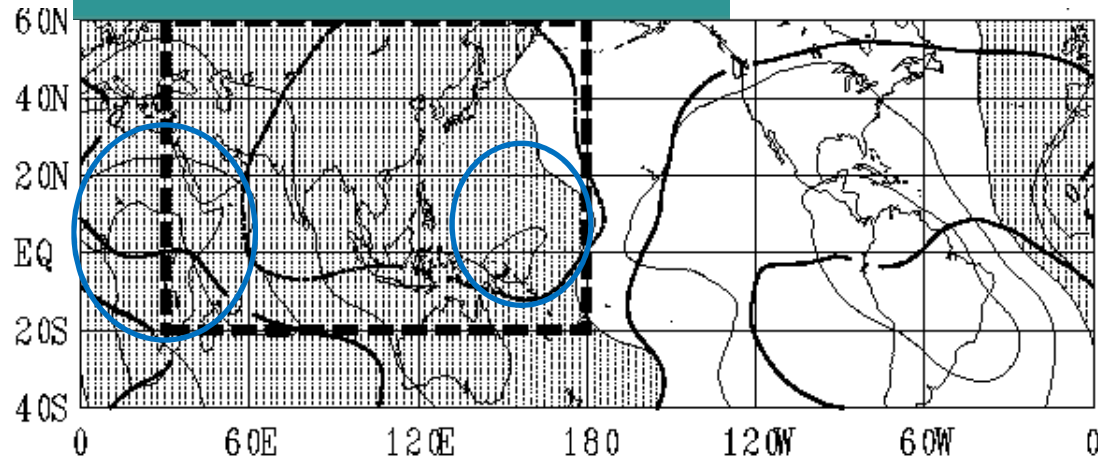
・北・東・西日本日本海側では、湿った空気の影響を受けにくく太平洋高気圧に覆われやすいため、やや少雨多照傾向。

・北日本太平洋側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、並雨多照傾向。

・東・西日本太平洋側では、太平洋高気圧に覆われやすいが、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、やや多雨やや多照。

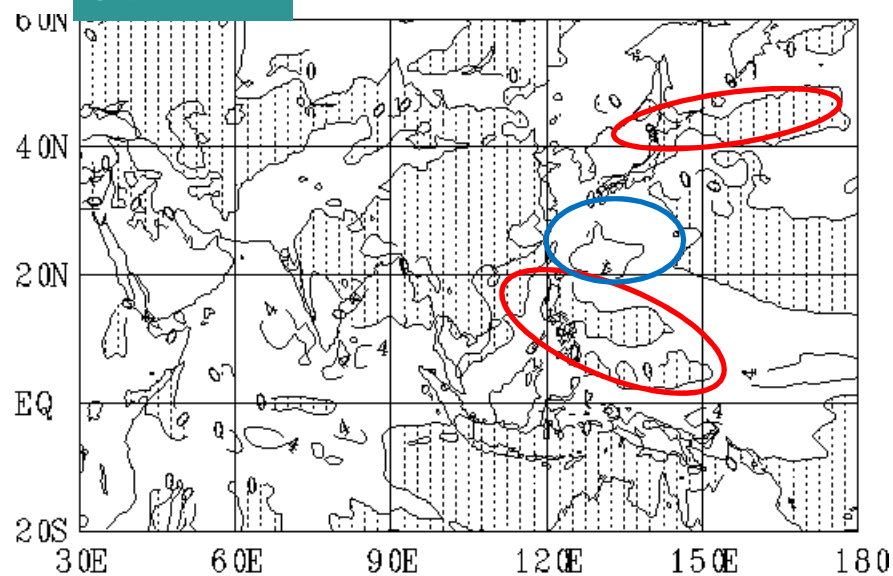
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、やや多雨並照。

## 200hPa速度ポテンシャル



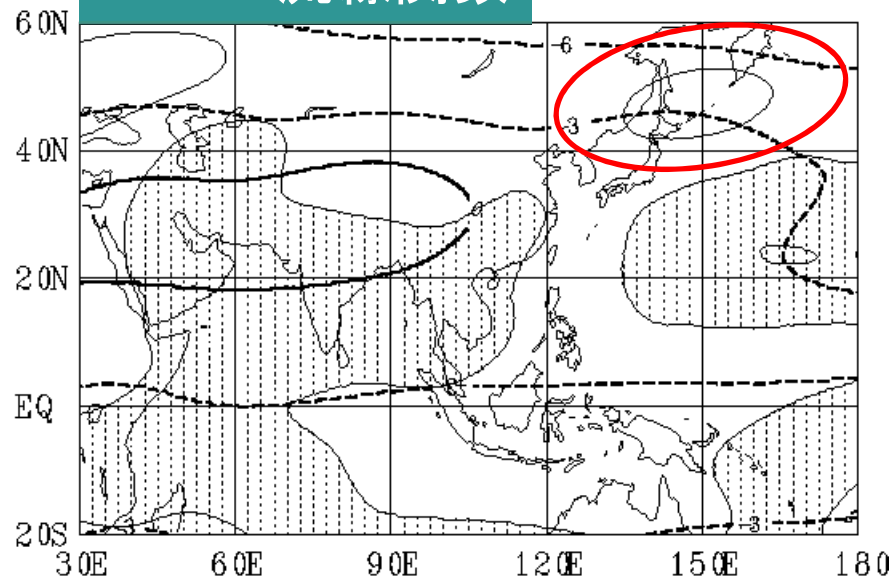
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。太平洋西部付近で弱い上層発散偏差。

## 降水量



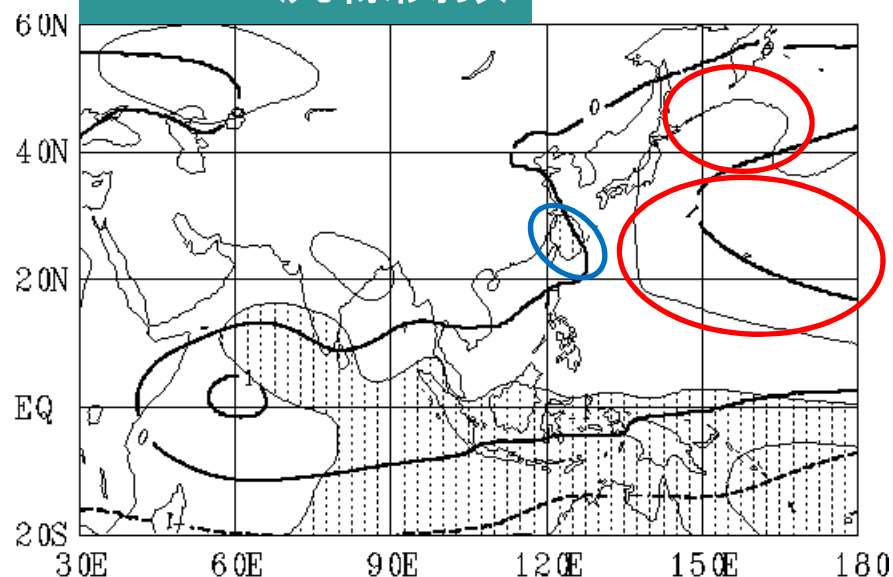
フィリピン付近から東と、北日本から千島の東にかけて少雨偏差。  
日本の南を中心に多雨偏差。

## 200hPa流線関数



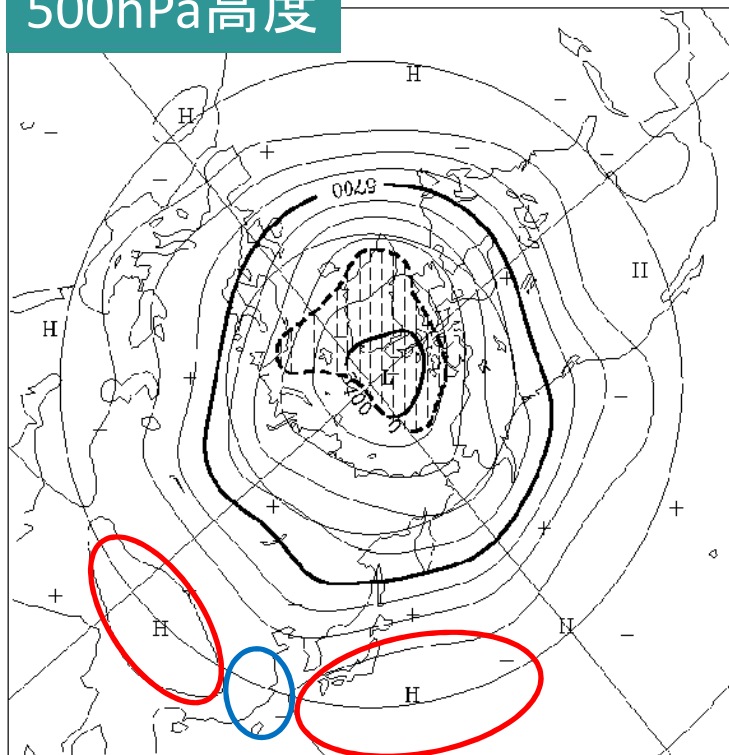
オホーツク海から千島近海付近で高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



千島近海付近と日本の南東から南で高気圧性循環偏差。一方、東シナ海付近には弱まりながら西進した低気圧性循環偏差。予測のスプレッドが大きく、この偏差はアンサンブルメンバーでもばらつきが大きい。そのため、予測に不確実性が大きい。

## 500hPa高度

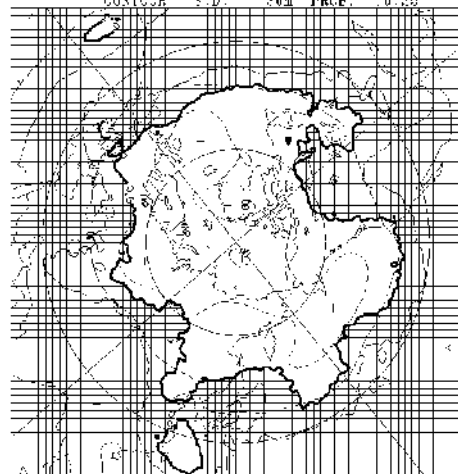
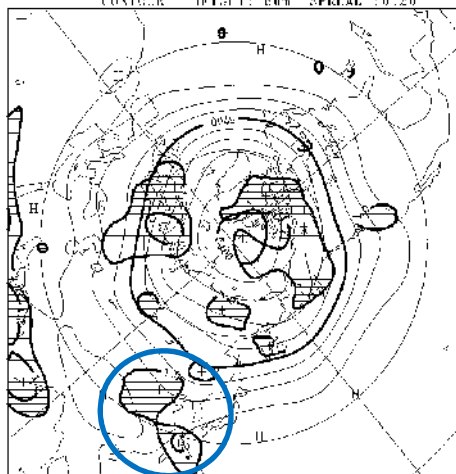


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

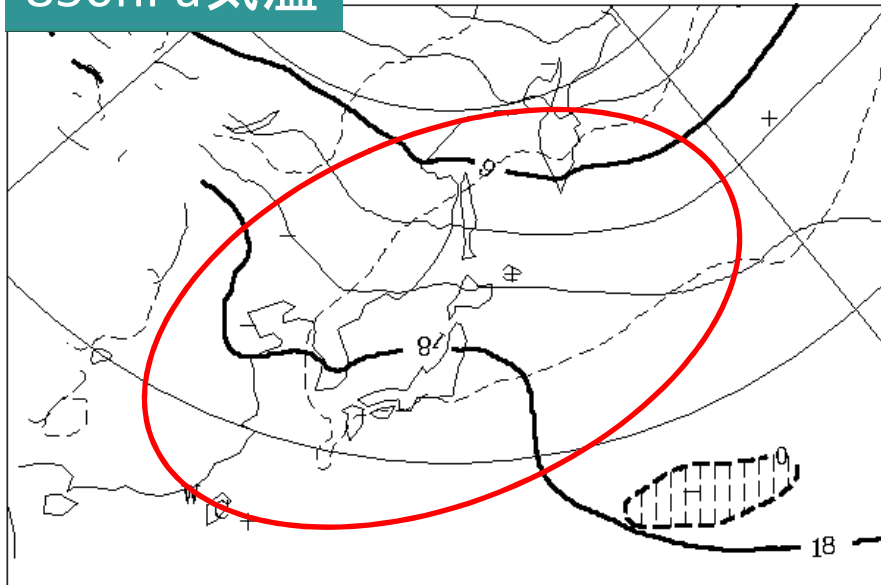
CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.75



500hPa高度では、日本の南東に中心を持つ高気圧が予想され、日本付近は正偏差で、北・東・西日本付近ではおおむね正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。

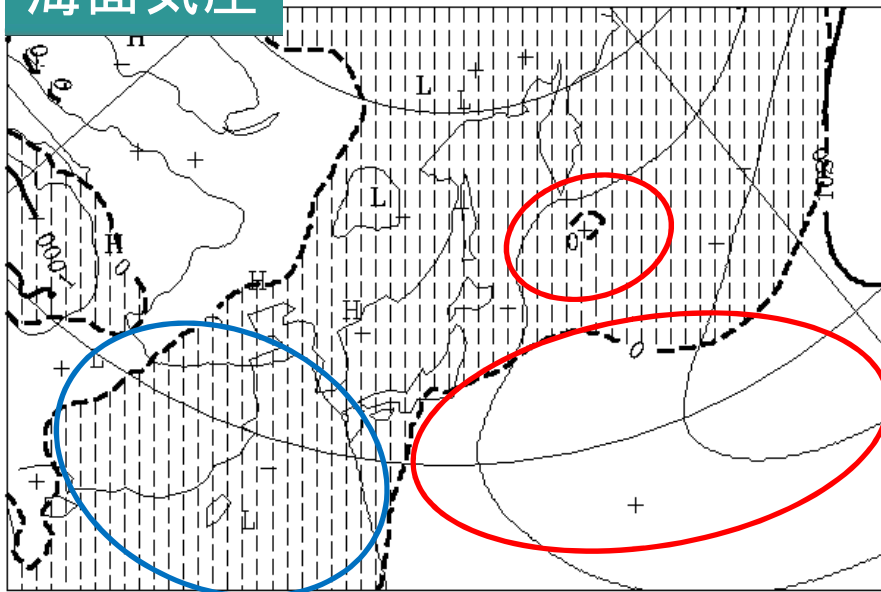
一方、チベット付近の高気圧との間で華中付近から東シナ海にかけて偏差が小さい。南西諸島付近を中心にスプレッドが大きく、予測に不確実性がある。

## 850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われる。

## 海面気圧



太平洋高気圧は日本の東から日本の南へ張り出す。また、上空のリッジに対応して千島近海付近で高気圧を予想。

一方、東シナ海から南西諸島付近を中心に負偏差で、低圧部に対応。

日本の東から張り出す太平洋高気圧と低圧部の影響で、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。



## 想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

### <気温>

・太平洋高気圧の縁を回る暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に高温。

### <天候>

・北日本では、太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、並雨やや多照。

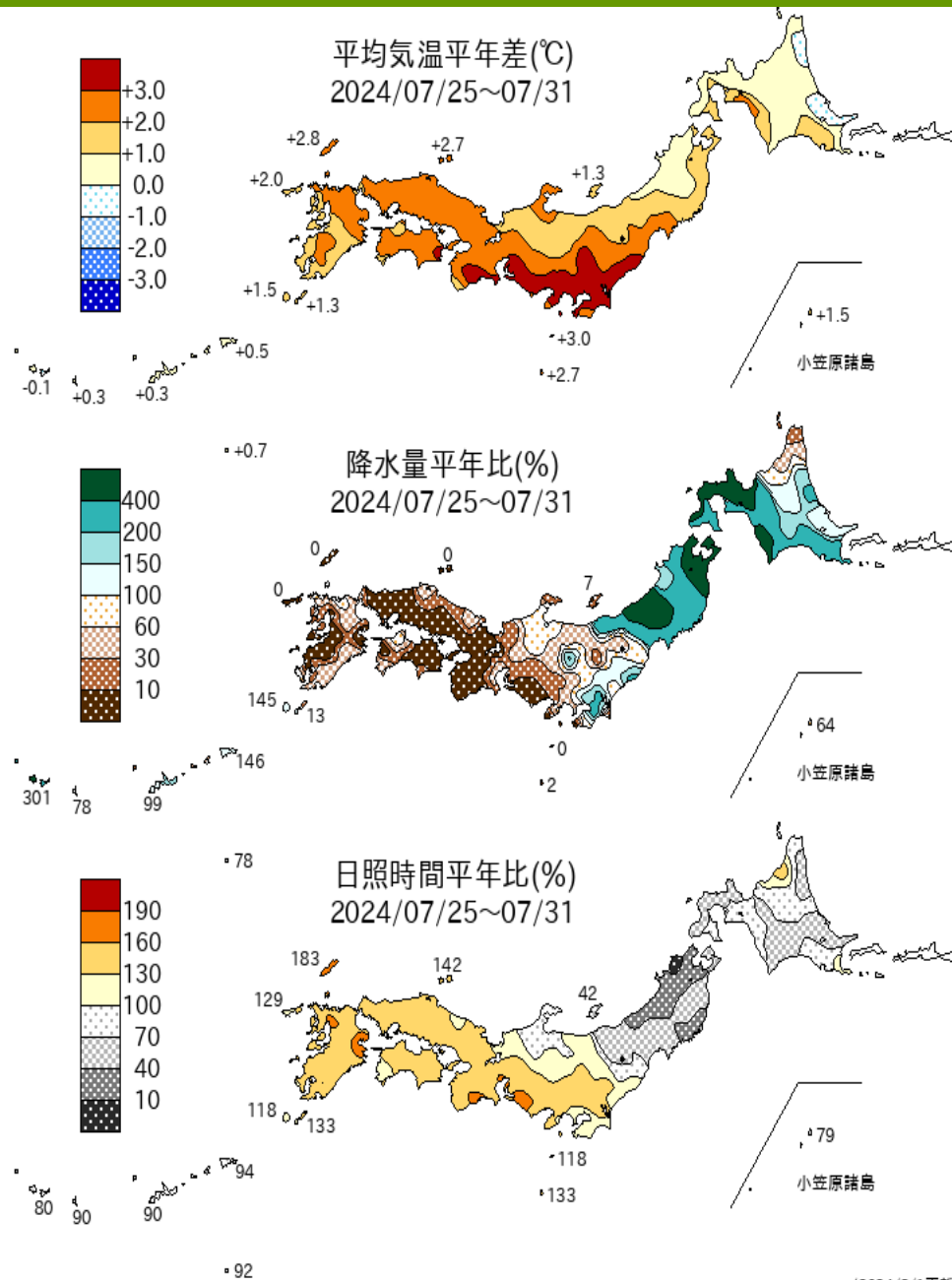
・東日本日本海側では、湿った空気の影響を受けにくく太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、やや少雨やや多照。

・東・西日本太平洋側では、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気が南から流れ込む影響を受けやすい時期があるため、やや多雨並照。

・西日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、並雨やや多照。

・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、やや多雨やや寡照。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(7月25日~7月31日)は、低気圧や梅雨前線、湿った空気の影響で、北日本や東日本日本海側では曇りや雨の日が多く、25日には山形県で線状降水帯が発生し大雨特別警報が発表されました。一方、東日本太平洋側と西日本では太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美では台風第3号が25日も影響し大荒れの所がありました。気温は、太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多かった東・西日本では29日に佐野で日最高気温41.0°Cを記録するなど記録的な高温となった所もあったほか、北日本でも暖かい空気が流れ込みやすかったため、平年を上回りました。